



日本の自動車工業の もうひとつの問題

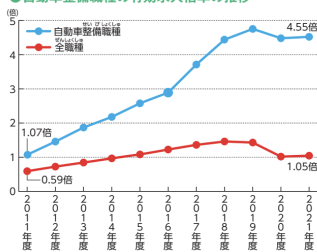
日本の自動車工業は、自動車が売れないというなやみがありますが、それだけではなく、もうひとつ深刻ななやみがあるといいます。それは、自動車工業で働く人が少なくなっているというなやみです。

深刻な人手不足

自動車工業は、日本の基幹産業（→3巻p6）です。それにもかかわらず、近年、人手不足が続いています。それは、自動車を組み立てる完成車メーカーよりも、部品を生産する部品メーカーのほうが深刻なところがあるといえます。3巻で見たとおり、自動車工業には、鉄鋼業やゴムの製造など、たくさんの工場が関係しています。そうした工場の人手が足りないのです。

また、こうした自動車をつくることにかかわる仕事のほかにも、自動車に関連する仕事

●自動車整備職種の有効求人倍率の推移

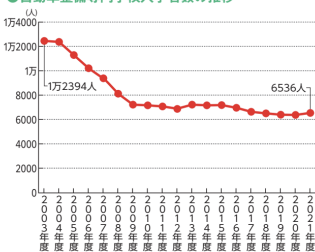


はたくさんありますが、そこでも人手不足が問題となっています。たとえば、自動車の修理などをおこなう自動車整備業では、下のグラフのとおり、自動車整備職種の有効求人倍率が上昇傾向にあることから、人手不足の深刻ぶりが明確になっています。

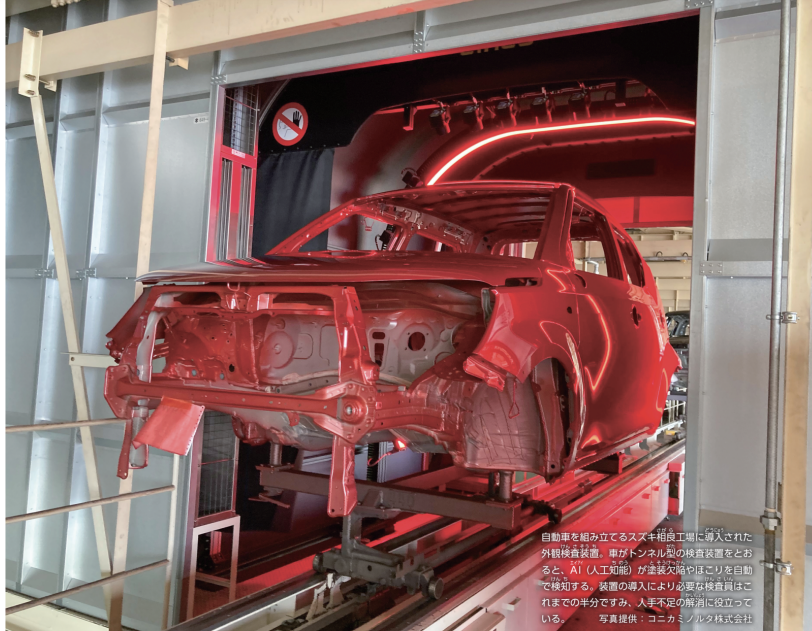
なお、自動車整備専門学校への入学者数も約20年間で半分近く（→3巻p10）に減少していることから、今後の担い手不足も問題となっています。

こうした人手不足は自動車工業にかぎらず、日本の社会全体がかえる問題ですが、その背景には、少子高齢化による労働力人口の減少があります。

●自動車整備専門学校入学者数の推移



※ 求人を探す人（求職者）ひとりに対し、何人の求人があるかを示す。倍率が1を上回れば、求職者数より人を採用している企業のほうが多く、下回れば求職者数のほうが多い。



自動車を組み立てるスズキ相模工場に入れた外観検査装置。車がトンネル型の検査装置をとると、AI（人工知能）が塗装欠陥やほこりを自動で検知する。装置の導入により必要な検査員はこれまでの半分ですみ、人手不足の解消に役立っている。写真提供：コニカミノーラ株式会社

人手不足対策はDX？

「DX」とは、デジタルトランスフォーメーション（Digital Transformation）のことです。「企業がビジネス環境のはげしい変化に対応するために、デジタル技術を活用し、業務、組織、プロセス、企業文化・風土を革新し、新たなデジタル時代にもじゅうぶんに勝ちのこれよう自社の競争力を高めること」を指す言葉。具体的には、AI（人工知能）やIoTなどのデジタル技術を用いて商品やサービス、さらにはビジネスモデルに変革をもたらすことです。

自動車工業のDXは、産業用ロボットやシステムの導入。工場を自動化しつつあります。

このように、日本の自動車工業は、人手不足をDXによって乗りきろうとしているのです。しかし、完成車メーカーのような、巨大で先端の技術をもつ工場はそれが可能ですが、部品をつくっている小さな工場などではDXは不可能だといわれています。

それでも、日本の自動車工業全体として考えると、人手不足や消費者のライフスタイルの変化、販売台数の減少など、さまざまな課題の解決には、DXが必要不可欠だといわれているのです。